

2の1 音楽科学習指導案

5月17日(木) 2限 第2音楽室

授業者 橋本 俊彦

1 題材名 ともだちのまねをして歌えるかな

2 本題材における知識創造

旋律やリズムに合わせて言葉や音を工夫し 友だちといっしょに表現する中で 交互唱の楽しさを味わう

楽曲との出会いは、子どもたちにとって、新しい刺激そのものである。歌詞や楽譜・挿絵など視覚的なものと、CDや教師の範唱など聴覚的なものが重なり合い、感情をゆさぶり、新しい感情を生み出している。本題材では、これに友だちの発する音という要素が、友だちとの「かかわり」とともに加わる。

教材曲「こぶたぬきつねこ」(山本直純 作詞/作曲)は、動物の大好きな子どもにふさわしい楽曲である。子どもたちに親しみのある動物とその鳴き声やイメージをもとに、友だちと姿を見合って歌ったり、音を聴き合ったりする中で、いっしょに交互唱する楽しさを味わうことができる。

多くの子どもが、教材曲について「歌ったことがある」「きいたことがある」という幼児期の経験をもっているであろう。本題材では、この経験を活かすことになる。多くの楽曲に親しみ、身体全体で音楽を楽しむ幼児期には、歌詞(言葉)とリズムが正確に呼応していることなど、楽曲を分析して理解する必要はない。そのため、音楽表現にある程度のスキーマをもち、生活全般に視野の広がり始める低学年のこの時期に、表現したことのある楽曲を教材として取り上げることで、楽曲のしくみを感じ取りながら、より音楽的な表現を求めることができる。

子どもは、動物になりきって演ずることを好む。また、楽曲中に登場する動物についても、動物の鳴き声や擬音を含めて、演じたり意識して鳴き真似したりすることで、より意欲的に活動に取り組むことができる。その際、同じ動物でも、友だちととらえ方や演じ方などが異なることで、様々な感性に出会い、影響し合いながら表現を楽しむことができる。しかし、ただ動物の真似をすればいいわけではなく、音程とリズムを正確に楽曲の中で表現する視点を忘れてはならない。付点8分音符と16分音符の組み合わせによるはずんだリズムの音と、4分音符2つの音の動物名や鳴き声などを聴き比べ、どんな表現がより望ましいかを感じながら表現することで、音楽的な楽しさを味わうことができる。また、先行する表現に合わせて呼応して表現することで、旋律の反復やつながりを感じ取ることができよう。

3 「かかわり」を活性化するために

(1) 本題材における「かかわり」の活性化

本題材における「かかわり」の活性化とは、一人一人の楽曲や動物に対する考えを表出・共有して、音程感やリズム感・歌い方などの音楽的な視点を持って、友だちの表現と自分の表現を比較しながら、どんな歌い方をしたらいいだろうと試行錯誤を重ねて音楽的を向上しようとしている状態ととらえる。「かかわり」によって、みんなで音楽表現そのものを楽しむ活動としての「かかわり」から、楽譜や歌い方などの音楽的な視点をもった「かかわり」へと深めることで、音楽を表現する楽しさを豊かに感じ取り、同時に個々の音楽性を深めることができる。

(2) 本題材における「かかわり」を活性化する手だて

ア. 楽曲との出会いを大切にする

まず、教材曲に出会わせる前に、子どもが大好きな動物について、教材曲に登場する動物に限らず、互いの感じ方や経験を共有させる。そして、その動物の動きや鳴き声をみんなで表現することで、動物の真似をして表現する楽しさを味わわせる。その際、動物に関連した楽曲を提示することで、音楽の中の動物、音で表す動物に親しませる。その後、4種類の動物を1曲で表している教材曲に出会わせることで、幼児期の経験だけではなく、より動物を意識して歌おうとする意欲を高める。

イ. 音や音楽で表現する力

子どもは、教材曲に登場する子ブタ・タヌキ・キツネ・ネコの動物について、様々なスキーマをもっている。大きさや形・鳴き声などといった客観的な見方から、自宅でネコを飼っていてかわいがっているなど直接経験を伴う主観的なとらえ方まで多様であり、その動物への好き嫌いを含めて、感じ方についての個人差がある。そこで、まずこれを十分に表出させ、動物のイメージをふくらませてから、その動物になりきることで、反復して表現する音楽の楽しさを味わわせる。その際、真似して歌う楽しさを感じ取ってから、音楽的な視点に意識を向けさせ、みんなに真似される歌い方をしたいという態度を育てる。

ウ. 評価しながら聴く力を育てる

互いの表現を聴き合う中で、自己主張をして動物になりきってその真似を競い合ったり、大きな声で歌ったりするよりも、音程の正しさやリズムの正確さ、それに関連した表情の豊かさなど、音楽的に良いと思う表現を、しっかりと聴き取らせる。みんなに認めてもらえる歌い方は、どこが、どんなふうに表現されているのかを注意深く聴き取らせ、言葉や音楽で表現させることを重ねることで、互いの表現力を向上させる。

4 指導計画（総時数2時間）

主な活動と内容	「かかわり」を活性化する手だてと意図
<p>1 様々な動物のスキーマをもとに、感じ方や鳴き声を出し合い、動物をテーマとした歌を歌う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うちで飼っているネコがすきです ・小さいネコの鳴き声は、かわいいよね ・ブタの鳴きまねができるよ。鼻を上にあげて… ・いまの鳴き声、何か怒っているみたいだったよ ・イヌは、いつもワンワン鳴いているわけではないよ ・「いぬのおまわりさん」のワンワンは、困って鳴いているんだよね ・〇〇さんの鳴き方が、とっても困った感じが出ているよ <p>2 楽曲「こぶたぬきつねこ」を、既習経験をもとにして単旋律で表現する</p> <p><「こぶたぬきつねこ」をうたおう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌ったことがあるから大きな声で歌えるよ ・動物の名前がしりとりになっているんだよ ・ブタのまねをして歌ったことがあるよ ・2つに分かれて、追いかけて歌うんだよ 	<p>想起</p> <p>スキーマの表出を活発に行わせるために、楽曲中に登場する動物に限定せず、一人一人に好きな動物とそのわけ、その鳴き声（擬音）を考えさせる。</p> <p>表出・共有</p> <p>動物に対する自らの思いや感じ方を友だちに伝えさせて、みんなで動きや鳴きまねをして、様々なイメージを共感させることで、個々の感じ方の差異を受け止めさせる。また、音楽との関連を図るために、「いぬのおまわりさん」「ぞうさん」「もりのくまさん」「アイアイ」など、動物の楽曲と結びつけた感じ方を広める。</p> <p>表出・共有</p> <p>歌詞だけを提示して、どんな歌かを表出し合わせることで、前時の学習をもとに、その動物になりきって表現する楽しさを味わわせる。また、子どもの発言から、しりとり歌になっていることを確認する。</p> <p>交互唱については、旋律把握ができてから取り組むようにする。</p>
<p>3 楽曲「こぶたぬきつねこ」を交互唱で歌う</p> <p><「こぶたぬきつねこ」を2つに分かれてうたおう！></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞だけでなく、リズムも繰り返しているんだね ・相手の音楽をしっかり聴くと、続けて歌うのは難しい ・最初に歌うグループのまねをして歌うと楽しいよ <ul style="list-style-type: none"> ・〇さんの歌い方はきれいに響いていたので、私も真似してみたいな ・わたしの歌い方を真似してほしいので、聴いてほしいな <ul style="list-style-type: none"> ・相手の音楽に合わせて、その歌い方を気をつけて真似する歌うと楽しいね 	<p>表出・共有</p> <p>交互唱のリズムの変化に着眼して、その楽しさを共有させる。最初に歌うグループと続けて歌うグループに分けて、音楽が呼応しているかを確認することで、相手意識を持って音楽を聴きながら表現することを感じ取らせる。</p> <p>表出・共有</p> <p>鳴き声や擬音は、どんな歌い方で表現すればよいかを考えさせ、友だちに真似してもらえる歌い方で表現できるように工夫させる。</p> <p>結合</p> <p>相手の旋律の音色に合わせて、注意深く聴きながら歌うことで、交互唱の楽しさを味わわせる。</p>

5 本時の学習（2 / 2時間）

（1）めざす知識創造

より良い歌い方の存在に気づいて表現しようとする中で、交互唱を楽しさを味わう

（2）展開

主な活動と内容	時	「かかわり」を活性化する手だてと意図
<p>1 ウォーミングアップをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちのリクエスト曲をともに歌う ・リズム遊びをする 	10	<p>想起・表出</p> <p>友だちの推薦した楽曲やリズムを、みんなで表現することで、友だちと音楽表現する楽しさを感じ取らせる。</p>
<p>2 楽曲「こぶたぬきつねこ」を単旋律唱する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しりとり歌になるように、順番に歌おうよ ・動物のまねをして歌うと楽しいね 	5	<p>表出・共有</p> <p>前時の学習をもとに、リズムにのって楽しく表現している姿を認め広めることで、一体感を楽しませる。</p>
<p>3 楽曲「こぶたぬきつねこ」を交互唱する</p> <p>「こぶたぬきつねこ」を2つに分かれて歌おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手拍子を打ったら弾んだリズムがたくさんあることがわかったよ ・手拍子で合わせると、何だかリズムでお話をしているようだね ・歌と手拍子を合わせると、手拍子で歌っているみたいに聞こえるよ ・続けて歌う方の歌いはじめのタイミングが難しい ・2つに分かれて歌うとやまびこみたいだね ・前半グループと後半グループが、同じように歌ったほうがいいんじゃないの？ 	10	<p>表出・共有</p> <p>まず手拍子によるリズム打ちさせることで、リズムの楽しさとみんなで合わせる難しさを感じ取らせ、歌うタイミングをつかませる。相手の音楽がない場合、拍を感じながら休符を入れて表現させる。その後、歌とリズム打ち、交互唱へと移行することで、付点八部音符を正確なリズムで歌う意識を高める。リレー形式で順に表現させることで、4小節目の四分音符の存在と、他との違いを感じ取らせる。</p>
<p>4 より音楽的な歌い方を工夫する</p> <p>真似したくなる歌い方を工夫しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムが楽しいので、楽しく歌ったらいいよ ・Aさん歌い方は、ブタの鳴き声っぽくていいけれど、音の高さがバラバラだったよ ・Bさんが歌っているときの顔の表情が明るくていいと思います ・Cさんの歌い方はきれいに響いていたので、私も真似してみたい ・わたしの歌い方を真似してほしいので、聴いてほしいな 	15	<p>表出・共有</p> <p>鳴き声や擬音を表現する際、子どもの発言を、音の楽しさから音楽的な表現力へと視点をしぼることで、音程や歌い方に着目した表現の工夫に気づかせる。</p> <p>真似をして歌ってみたい人を見つけさせ、その歌い方をしっかりと聴き、つづけて交互唱させることで、一人一人が音程や歌い方を意識した表現をしようとする態度を高める。</p>
<p>5 交互唱の楽しさを味わいながら表現する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめの部分も、相手の音楽に合わせてみよう <p>歌い方に気をつけて、ともだちにつづけて歌うと、とっても楽しいね。</p>	5	<p>結合</p> <p>交互唱での相手のフレーズを注意深く聴きながら、それに呼応して表現する楽しさを感じ取らせるために、グループでの表現をつなぎ合わせて、みんなで表現する楽しさを味わわせる。</p>